九戸政實 生誕の地 終焉の地

北の地に散った最後の戦国武将

# 九戸政實歴史探訪 史跡めぐり

walking map

九戸村

# 義の心で天下人に立ち向かった最後の戦国武将

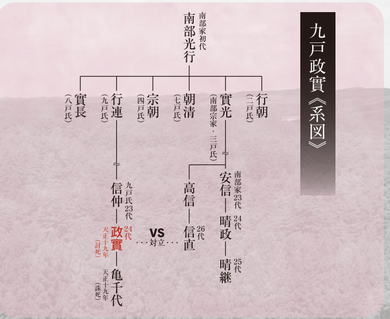
## 九戸政實 生誕と終焉の地・九戸村

九戸左近将監政實（くのへさこんしょうげんまさざね）は戦国時代真っ只中の天文5（1536）年、青森〜岩手県にかけてを統治した南部氏に連なる一族・九戸氏の嫡男として誕生。九戸氏の菩提寺とされる長興寺で生まれ、幼少期は住職の永鷲（えいしゅう）和尚に学びました。永禄6（1563）年、28歳にして父の後を継ぎ24代目領主に。「九戸五郎」として室町幕府の記録にその名が残ります。

そんな政實が歴史の表舞台に登場するのは天正19（1591）年。南部本家の後継ぎ騒動をきっかけに時の南部家当主・信直と対立を深め、開戦。信直は太閤・豊臣秀吉を頼り、政實は秀吉の強引な東北平定策「奥州仕置」への領民の不満をその身に背負って、戦は天下人を巻き込んだ「九戸政實の乱」へと発展しました。

秀吉・信直の中央軍6万5千に対し、たった5,000の兵力で果敢に戦った政實でしたが、最後は中央軍の騙し討ちに遭い落命。斬り落とされた首を家臣が密かに持ち帰り、生まれ育った九戸村に塚を建てて葬ったと伝えられます。

### 九戸政實《系図》



### 九戸家の家紋　九曜紋

●は星を表し、中央の大きな星を八星が囲むさまが満月の意味を持つとされた㊐九曜紋（くようもん）。星が"勝ち星"に通じるなどとして、伊達政宗や細川忠興をはじめ戦国武将が好んで使用したといいます。

※「中央の星が太陽、周囲を囲む星は太陽系の惑星を表している」など諸説あり。

## 九戸政實にまつわる主要なスポット・トピックス（QRコードから各史跡の動画がご覧いただけます）

### ①熊野館

補足情報

役場の駐車場を使用可。熊野館入口から10分ほど上ったところに神社があり、さらに10分ほど上ると頂上に到着。巨木の三本杉周辺には三頭木が多く、パワースポットとしても注目されている。

九戸村役場裏手の赤い鳥居が目印。九戸城築城前の九戸一族の本拠地といわれ、伊保内、長興寺など九戸村南西部が見渡せる場所。広い館址の中には公園や熊野神社があり、春はカタクリ、桜、つつじ、秋は紅葉があでやか。

### ②大名館

補足情報

長興寺の駐車場を使用可。「大名館」表示板から砂利道を5分ほど上ると、大きく開けた草原が出現。周囲にはお堀の痕跡も残る。

九戸氏が代々居館とし、政實もここで生まれたと伝わる平山城（低山や丘陵と周囲の平地を利用した城）跡。九戸神社参道の北側の丘陵地に位置し、長興寺からも 500mほどの近距離にある。曲輪（城や砦の周囲に築いた土石の囲い）跡は現在、牧草地で、東西に長く緩やかな傾斜地が広がる。

### ③長興寺

補足情報

国道340号線沿い、長興寺小学校すぐ横にあり、公孫樹（いちょう）の大樹が目印。黄金色の葉が舞う秋は特に見応えあり。

九戸氏代々の菩提寺といわれ、当時の地域の文化的中心地。政實の父・右京信仲の位牌が残る。政實は幼少期、長興寺住職・永鷲和尚に学んだ。境内には推定樹令 800 年を越える「公孫樹（いちょう）」が幹周り 9.2m、高さ 32mの堂々たる姿を見せる。

### ④旧羽黒神社

補足情報

二戸市と九戸村を結ぶ岩手県道24号線から砂利道に入り、徒歩約5分。杉の大木に囲まれた社が清らかな雰囲気を醸し出す。

天文7年（1538）、九戸氏が建立。「天文七年（1538）羽黒権現大檀那源政實（はぐろごんげんおおだんなみなもとのまさざね）」との表記がある権現堂棟札（社寺の建築・修繕記録として納める木札）は、政實存命当時から今まで残る唯一の資料。九戸氏没落後、消滅の危機に陥るも、地元民の信仰に支えられて現在に至る。※権現堂棟札は現在、九戸神社内で保存。

### ⑤九戸神社

補足情報

国道340号線から境内への入り口に建つ石碑が目印。参道には神秘的な沼があり、桜や紅葉も美しい。境内は広いので、散策するなら履き慣れた靴で。

承和9年（842）に北辰妙見宮として創建されたと伝わる九戸地方の総鎮守。九戸氏が代々戦勝祈願を行った神社で、永禄 12 年（1569）秋田の安東氏との鹿角奪回の戦いの際にも祈願を行ったとか。"政實"の名が記された唯一の史料である旧羽黒神社の棟札が残されている。

### ⑥政實神社

補足情報

九戸神社の境内にある。参道の表示板に書かれた建立の経緯からは、村民ら有志の深い"政實愛"が伝わる。

九戸家没後 400 回忌に際して九戸家菩提寺・長興寺に有志が「九戸家先祖代々の墓」を建立。これをきっかけに機運が高まり、4年後の平成7年（1995）に村民によって建立された。祭日は政實の誕生日とされる10月30日。

※実は平成6年、はるばる九州から九戸村に現れた人物が「政實公が毎晩のように夢枕に立ち、神社建立を望んでいる」と訴え、約1カ月もの間滞在。心動かされた村民が立ち上がってできたのが政實神社だとか…。

### ⑦天下森

補足情報

岩手県道24号線と国道340号線、村道が交わる三叉路から村道に入り徒歩約15分。黄赤板の周囲一帯が天下森。

天正 19 年（1591）8月、本隊と分かれた中央軍の別動隊が戸田・伊保内・大名館（一戸町〜九戸村）の諸城を攻め落とした後で野営したと伝わる場所。名前の由来は"天下人の軍が野営した"ことから。道の駅おりつめからほど近い丘陵地帯が史跡となっている。

### ⑧首塚

補足情報

国道340号線から九戸神社に向かう途中、平和祈念像を目印に左折し、農免道路を歩くこと5分ほどで到着。3台程度の駐車スペースもあり。

政實は三ノ迫（宮城県栗原市）で斬首されたが、最期を見届けようと密かに追って来た家来がその首を持ち帰り、ふるさとの九戸村に葬ったと伝わる。長い間伝承として伝わっていたが、昭和 51 年（1976）の調査で塚の存在が確認された。直径 6m、高さ約1mの円形の盛り土の上に方形の石が重ねられ、現在は供養塔も建っている。

### 九戸政實《年表》

| 年号 | 西暦 | できごと |
|---|---|---|
| 天文5年 | 1536 | 九戸領主・九戸信仲の嫡男として長興寺にて誕生。 |
| 天文22年 | 1553 | 武田信玄と上杉謙信の川中島の戦い始まる。 |
| 永禄3年 | 1560 | 桶狭間の戦いにて、織田信長が今川義元を破る。 |
| 永禄6年 | 1563 | 28歳で24代九戸領主に就任。 |
| 永禄12年 | 1569 | 34歳。南部家当主・晴政による領地奪回戦の先陣を務め勝利。軍功で得た城を「九戸城」と改名し本拠地とする。 |
| 天正10年 | 1582 | 南部晴政と嫡男・晴継が急死。晴政の養子・信直による陰謀説も囁かれる中、評議により信直が26代当主に。政實VS信直が対立。 |
| 同年 | — | 本能寺の変勃発。 |
| 天正14年 | 1586 | 羽柴秀吉、豊臣姓を賜り、太政大臣に就任。 |
| 天正18年 | 1590 | 秀吉の小田原攻めにより小田原城落城。 |
| 同年 | — | 南部信直、秀吉より「領地安堵の朱印状」を与えられる。 |
| 天正19年 | 1591 | 56歳。正月、恒例の南部宗家への新年挨拶を欠席。 |
| | | 3月　南部宗家（信直）VS九戸党（政實）の全面合戦開始。 |
| | | 4月　一戸城争奪戦に敗れた信直が秀吉に援軍要請。 |
| | | 7月24日　蒲生氏郷率いる中央軍が会津若松を出発。 |
| | | 8月24日（※）　中央軍が九戸城を包囲。 |
| | | 9月2日　中央軍が長興寺の薩天和尚を使者に和議を申し入れ。 |
| | | 9月4日　説得に応じ政實以下8名の武将が中央軍へ投降。 |
| | | 9月17日　政實ら三ノ迫（宮城県栗原市）へ送致。 |
| | | 9月20日　豊臣秀次の命により政實ら斬首に処される。 |

※中央軍が九戸城を包囲した日は25日とも。


◆参考：
九戸政實公没後四百年記念「戦国武将 九戸政實」（九戸政實公没後四百年記念事業実行委員会刊）
郷土の英雄「戦国武将 九戸政實」（九戸村教育委員会刊）
九戸村の文化財（九戸村教育委員会刊）

企画・発行
**九戸村観光協会**
〒028-6502 岩手県九戸郡九戸村大字伊保内第10-11-6
TEL.0195(42)2111㈹・FAX.0195(41)1005
http://www.vill.kunohe.iwate.jp

# 九戸政實 歷史探訪 史跡めぐり

walking map

九戸氏が代々拠点を置き、政實も生まれ育った九戸村。中世から長い歴史を持つ村には、政實ゆかりの場所のほか、さまざまな伝承や昔話にまつわるスポットが存在しています。また総面積の 70%が山林原野で占められ、村のシンボルである折爪岳は貴重なヒメボタルが生息するなど、緑豊かな地。四季折々の自然を楽しみながら、むら歩きに出かけてみましょう。

新山神社

長徳寺

旧羽黒神社

円通寺

HOZホール人形

月山神社

## COLUMN 1 のんべえのお守り「ほず袋」

伊保内館からほど近い円通寺ではお酒好きのお守りとして「ほず袋」を作っている。「ほず」は南部弁で理性・正気を表す言葉で、酔っぱらいはこの「ほず」を失くすという意味で「ほずなし」と呼ばれる。九戸地方では「伊保内街さ行ってほず買ってこい」というフレーズがあるが、これは伊保内の街道に飲食店が軒を連ねていた昔、多くの人が酔って「ほず」を落としたので、それを買ってこい…という定番ジョーク。

## COLUMN 2 多彩な神楽

〝郷土芸能の宝庫〟といわれる岩手県の中でも、長い伝統を誇る九戸の神楽。始まりは修験者の間で伝承された山伏神楽で、戦後、消滅の危機に陥りながらも、村民の熱い思いによって復活した経緯がある。村内には旧南部領の「江刺家（えさしか）神楽」や「九戸神楽」、「瀬月内（せつきない）神楽」が伝わり、獅子頭を持って舞う「権現舞」をはじめ、多彩な舞が祭りで奉納される。また「九戸の山伏神楽祭典」（毎年 12 月開催）では各地域の神楽が一堂に会し、自慢の舞を披露。リズム・節・振り付けに個性が光る神楽を見比べてみては？

# 九戸政實ゆかりの地を行く～九戸村全体マップ～

九戸氏の栄枯盛衰を見守り、現在も村の中央を流れる瀬月内（せつきない）川。流域には、政實や家臣の居館を意味する史跡「館（たて）」が点在しています。

長興寺の公孫樹

九戸氏の菩提寺で、政實が育った場所と伝わる。

江刺家（えさしか）館

詳細不明なものの室町時代には九戸氏の、戦国時代には分家の江刺家氏の居城だったといわれる。

大名館

熊野館

伊保内館（大館）

円通寺そば、瀬月内川左岸の河岸段丘に築かれ、「大館」「小館」の2つの建物があったとされる。主は九戸氏配下の在地勢力である伊保内氏。

上空からの動画がご覧いただけます。

**戸田館**
政實の家臣、戸田帯刀の居館だったと伝わる南北200m余り、東西約100mの高台。当時から四方に道路が通じ、交通の要衝としての役割を果たした。

**瀬月内館**
村の南端に位置し、川に向かって突き出した丘陵地。地形を巧みに利用した戦国時代の居館だったと思われる

新山神社（参道上より）

旧羽黒神社（参道）

九戸神社（参道）

九戸氏が代々戦勝祈願を行った神社。〝政實〟と記された神社の棟札が現存。

首塚（異事同根の樹）

※参考：九戸村の文化財／九戸村教育委員会発行

# 九戸村たっぷり満喫《おすすめお散歩》コース

## 政實の生涯を辿る！

政實が育った長興寺を発着点に、居館があった大名館、戦勝祈願をした九戸神社などを探訪。往時の面影を留める自然の中で、九戸氏の栄華に思いを馳せて。

- 長興寺
- ▼（20分）
- 大名館
- ▼（15分）
- 首塚
- ▼（15分）
- 九戸神社
- ▼（5分）
- 政實神社
- ▼（25分）
- 千本松
- ▼（10分）
- 長興寺

（total:90分）

※（　）内は、移動の所要時間。（スポットでの滞在時間を除く）

## まちなみと食を楽しむ！

村役場がある伊保内地区は村の中心部。ご当地グルメにお土産、レトロな町並みも楽しめる。かつての九戸氏の拠点・熊野館から村を一望すれば気分は戦国武将!?

- 九戸村役場
- ▼（20分）
- 伊保内館
- ▼（15分）
- 円通寺
- ▼（10分）
- まさざね館
- ▼（30分）
- 熊野館
- ▼（15分）
- HOZホール
- ▼（役場隣接）
- 九戸村役場

（total:90分）

※（　）内は、移動の所要時間。（スポットでの滞在時間を除く）